

空堀商店街（大阪市中央区）周辺の 町屋に関する研究

川 窪 広 明

A Study on Wooden Houses around Karahori Shopping Mall
(Chuo-ku, Osaka)

KAWAKUBO Hiroaki

1. はじめに

住吉大社から北東に向かって大阪城までの約12kmの間、大阪市住吉区、阿倍野区、天王寺区、中央区にまたがる細長い丘陵は「上町台地」と呼ばれ、大阪市内では珍しく坂の多い地域となっている。この地域に含まれる大阪市中央区の空堀商店街周辺は、第2次世界大戦の空襲による火災を免れた地域であり、現在も戦前に建てられた木造住宅、いわゆる町屋が残されている。また道路脇には、表通り、路地を問わず数多くの祠を見ることができる。この地域のまちづくりの歴史は古く、天正11年（1585年）の豊臣秀吉による大阪城築城の際、全国各地から集められた数万人のための住宅建設が契機であるといわれている^{文1)}。これらの住宅の多くは長屋形式のものであり、特に大阪では都市住宅の主流として終戦時まで建設が続けられた^{文2)}。また祠の建立も、この住宅建設とともに開始されたといわれている。長屋のように多くの人々が密集して生活する場所においては火事や伝染病などが発生しやすいため、これらの災難を鎮めることを目的として数多くの祠が祀られるようになったのである。そして祠の祭事においては、各地から大阪に移住してきた長屋の住民が一致協力して運営にあたることになり、祠を中心とした豊かな近隣社会が形成されるようになった。

現在の空堀商店街周辺は、大阪の中心部として都市化が進んでおり、突然、古い町屋が解体されて更地となり、その後マンション工事が始まるなど景観の変化も著しい。また解体されないまでも空き家となり、半壊状態のまま放置されている町屋も見受けられる。その一方で、この地域では町屋の建物保存を目的とした再生事業を行っているグループなど

の市民によるコミュニティ活動が活発であり、上町台地周辺地域で活動するさまざまなグループが連携したコミュニティ・ネットワークも形成されている^{文3)}。また空堀商店街では、地蔵盆など祠の祭事に様々なイベントを企画して、商店街の活性化を図る試みも行われている。

そこで本研究では、1977年に調査された空堀商店街周辺の町屋と祠について2004年に再調査を行い、双方の結果の比較から27年に渡る都市化の波がこの地域の町屋と祠にどのような影響を及ぼしてきたかについて検討した。

2. 研究の方法

1977年の調査は、株式会社DAN計画研究所（大阪市中心区）の吉野らによって行われたものである。調査範囲は、上町筋と松屋町筋間の東西0.8km、千日前通から国立大阪病院間の南北1.2kmの市街地であり、旧町名により銅座、桃園、桃谷、瓦屋町、東平の5地区に区分される（図1）。これらの地区に含まれる現在の町名を表1に示す。この調査では、町屋については表通りに面した木造の戸建て住宅と長屋のうち、「保存状態が良いもの」の写真を撮影し、所在地を地図上に記録している。ただし、吉野によると「保存状態が良いもの」という判断は、調査者の主観によってなされたものであり、当時、調査範囲に存在したすべての町屋を網羅したものではないとのことである。一方、祠については、調査範囲内のすべての道路（路地を含む）を踏査して、発見した祠の写真を撮影し、所在地を地図上に記録している。



図1 調査範囲

今回の調査では、これらの写真と地図を参考に1977年に調査された町屋と祠の所在と現況の確認を行うとともに、町屋の住民や祠近隣の住民に対する聞き取り調査を行った。なお、今回の調査は2004年1月に行われた。

表1 調査地区に含まれる現在の町名

銅座	十二軒町、内久宝寺・1・2丁目、上町、龍造寺町、谷町4・5丁目
桃園	安堂寺町2丁目、谷町6丁目、谷町7丁目2～6番地
桃谷	谷町7丁目1番地、安堂寺町1丁目、上本町西1・2・3丁目
瓦屋町	瓦屋町1・2・3丁目
東平	谷町8丁目、上本町西4丁目、上汐町1・2丁目、東平1・2丁目

3. 結果と考察

3-1 町屋の現況

1977年に調査された町屋を当時の写真によって次の5種類に分類した。

- 1) 長屋…木造2階建ての低層集合住宅（写真1-①）
- 2) 戸建て（門）…敷地の周囲が塀で囲まれ、通りに面して門を持つもの（写真1-②）
- 3) 戸建て（蔵）…土蔵を持つもの（写真1-③）
- 4) 戸建て（3階）…3階建ての戸建て住宅（写真1-④）
- 5) 戸建て…2）、3）以外の2階建ての戸建て住宅（写真1-⑤）。ただしこの中には、長屋として建てられたが、1977年当時、すでにその一部が取り壊され1戸のみが残されていた可能性を持つものも含まれる

また今回の調査結果と1977年当時の写真を比較して、町屋の変化状況を次の7種類に分類した。

- 1) 現存…建物外観に窓や扉の取り替え以外の大きな変化がなく、現在も住宅として使用されているもの（写真2-①）
- 2) 一部現存…建物の一部が建て替えられている、あるいは駐車場などに転用されているが、残りの部分は現在も住宅として使用されているもの（写真2-②、③）
- 3) 転用…建物外観に大きな変化はないが、現在は店舗などに転用されているもの（写真2-④）
- 4) 戸建て住宅への建て替え…建物全体が取り壊され、新しく戸建て住宅に建て替わったもの（写真2-⑤）
- 5) マンションへの建て替え…建物全体が取り壊され、新しくマンションに建て替わったもの（写真2-⑥）
- 6) オフィスビルへの建て替え…建物全体が取り壊され、新しくオフィスビルに建て替わったもの（写真2-⑦）
- 7) 駐車場への転用…建物の跡地が月極駐車場やコイン式駐車場となっているもの（写真2-⑧）

1977年の調査では、調査範囲全体で55軒の町屋が記録されており、その内訳は長屋34軒、戸建て（門）5軒、戸建て（蔵）5軒、戸建て（3階）3軒、戸建て8軒であった。また地区別では、桃園地区が最も多く29軒、続いて桃谷地区11軒、銅座地区10軒、瓦屋町地区3軒、東平地区2軒であった。

これらの町屋の変化状況を表2に示す。今回の調査では、55軒のうち現存は21軒であった。ここで

$$\text{現存率 (\%)} = \text{現存数} / \text{全軒数} \times 100$$

と定義すると、調査範囲全体の現存率は38.2%となり、この27年間に前回調査された町屋の6割以上が失われていることがわかった。また現存の21軒中に空き家と思われるものが5軒あったが、これらは1977年当時は住宅として使用されていたものである。

表2 調査を行った町屋の変化状況

建物 番号	地区名	1997年	2004年	建物 番号	地区名	1997年	2004年
1	銅座	長屋	ビル	29	桃園	戸建	現存
2	銅座	長屋	ビル	30	桃園	長屋	現存
3	銅座	戸建	現存	31	桃園	戸建(蔵)	ビル
4	銅座	長屋	現存	32	桃園	長屋	駐車場
5	銅座	長屋	現存	33	桃園	長屋	一部現存
6	銅座	戸建	現存	34	桃園	長屋	現存
7	銅座	戸建	マンション	35	桃園	長屋	駐車場
8	銅座	長屋	現存	36	桃園	長屋	現存
9	銅座	長屋	一部現存	37	桃園	長屋	マンション
10	銅座	戸建(門)	ビル	38	桃園	長屋	一部現存
11	桃園	長屋	マンション	39	桃園	戸建(蔵)	駐車場
12	桃園	長屋	現存	40	桃谷	戸建3階	駐車場
13	桃園	戸建	マンション	41	桃谷	長屋	駐車場
14	桃園	戸建	住宅	42	桃谷	戸建	現存
15	桃園	長屋	マンション	43	桃谷	長屋	一部現存
16	桃園	戸建3階	現存	44	桃谷	戸建(蔵)	住宅
17	桃園	戸建	現存	45	桃谷	戸建(門)	転用
18	桃園	戸建(門)	転用	46	桃谷	戸建(蔵)	ビル
19	桃園	長屋	一部現存	47	桃谷	長屋	住宅
20	桃園	長屋	一部現存	48	桃谷	戸建(蔵)	住宅
21	桃園	長屋	現存	49	桃谷	戸建(門)	マンション
22	桃園	長屋	マンション	50	桃谷	長屋	現存
23	桃園	長屋	一部現存	51	瓦谷町	長屋	現存
24	桃園	長屋	ビル	52	瓦谷町	戸建3階	マンション
25	桃園	長屋	駐車場	53	瓦谷町	長屋	現存
26	桃園	長屋	一部現存	54	東平	長屋	現存
27	桃園	戸建(門)	現存	55	東平	長屋	現存
28	桃園	長屋	現存				

地区別の現存率は、1977年の調査で記録された軒数が少ない瓦谷町地区と東平地区がそれぞれ76.7%（2軒／3軒）、100%（2軒／2軒）であったが、29軒と最も多かった桃園地区は37.9%（11軒／29軒）、10軒の銅座地区は50%（5軒／10軒）であった。また桃谷地区の現存率が最も低く11.1%（1軒／9軒）であった。

一部現存は、8軒（銅座地区1軒、桃園地区5軒、桃谷地区2軒）であった。これらの建物は、1977年当時はずべてが2階建ての長屋として完全な外観を保っていた。このうち5軒では、長屋の一部が取り壊され、戸建て住宅や駐車場に変わっていた。例えば写真2-②の建物は、1977年の調査時には2軒長屋であったが、2004年には1戸が取り壊されて駐車場となり、残った1戸は引き続き住宅として使用されている。このような建物は、残された住宅の切断部分が金属板で覆われており、ペイントが塗られたり赤錆が浮いた表面は街の景観を著しく損ねていた。他に5軒長屋の1戸を取り壊すことなく、1階部分のみ店舗に改装したのもあった（写真2-③）。

また転用は2軒（桃園地区1軒、桃谷地区1軒）であった。これらは1977年当時は門や土蔵を持った戸建ての町屋であったが、桃園のものは複合商業店舗（写真2-④）、桃谷のものはギャラリーとなっている。今回の調査結果から、この2軒のように門や土蔵を持った町屋で現存するものは、10軒中1軒のみであることがわかった。これは門や土蔵を持つ町屋は総じて敷地が広いため、1980年代のバブル期における地価高騰や世代交代による相続の問題によって維持が困難となり、手放されたり規模の小さな住宅に建て替えられたものと考えられる。

一方、新しい建物への建て替えと駐車場への転用は合計24軒であった。内訳は、戸建て住宅4軒、マンション8軒（桃園地区の13番は工事中）、オフィスビル6軒、駐車場6軒である。このうちマンションへの建て替えは、地区別に見ると桃園地区と桃谷地区に8軒中7軒が集中しているが、近隣の住民によるとこれらのマンションはずべてここ10年以内に建設されたものである。これより桃園、桃谷両地区は、地区内に空堀商店街があり、地下鉄谷町線および鶴見緑地線の谷町6丁目駅にも近いため、近年における人口の都心回帰の傾向^{注1)}からも都市居住に適した地区として注目されているものと考えられる。

3-2 町屋居住者に対する聞き取り調査

現存の町屋21軒のうち、10軒（銅座地区4軒、桃園地区2軒、桃谷地区1軒、瓦谷町地区2軒、東平地区1軒）の居住者に対して聞き取り調査を行った。このうち3軒（住宅番号3, 4, 12）は借家、7軒（住宅番号5, 6, 21, 42, 50, 51, 54）は持ち家であったが、全て築後70年以上を経ており、6軒は築後100年以上を経ているとのことであった。

1) 住民の家族構成と年齢

居住者の年齢分布と家族構成を表3に示す。調査した町屋の居住者は合計21人であったが、80歳以上が6人（最高齢者は93歳）、70歳代が6人、60歳代が4人と、60歳以上の高

表3 居住者の年齢分布と家族構成

住宅 番号	性別	80歳 以上	70～ 79歳	60～ 69歳	50～ 59歳	40～ 49歳	30～ 39歳	20～ 29歳	19歳 以下	家族 構成
3	男									1
	女		1							
4	男	1								2
	女		1							
5	男			1						2
	女			1						
6	男		1		1			2		5
	女				1					
12	男		1							1
	女									
21	男	1								1
	女									
42	男	1								2
	女	1								
50	男			1			1			3
	女			1						
51	男		1							2
	女		1							
54	男	1								2
	女	1								
合 計		6	6	4	2	0	1	2	0	21

注) 斜体の住宅番号は借家

齢者が全体の7割以上を占めていることがわかった。また家族構成については、2人が5軒、1人が3軒であり、いずれも60歳以上の夫婦、あるいは1人暮らしであった。これより調査地域の町屋居住者は非常に高齢化していること、また若い世代と同居している家族は少ないことがわかった。なお、聞き取りに回答していただいた方の居住年数は、借家、持ち家にかかわらず9人が50年以上であり、他の1人についてもその配偶者(夫)は子供の頃から50年以上居住しているとのことであった。

2) 室構成

調査した町屋の室構成を表4に示す。室構成の特徴としては、以下の点を挙げる事ができる。

- ①洋室を持つ家が少なく、特に1階に洋室を持つ家はない。
- ②持ち家では、戸建て、長屋ともに21番と50番以外は和室の数が多い。なお、50番の2階の洋室は、3室の和室を20畳程度の洋室に改修したものである。
- ③LDKやDKがある家はない。また2世帯住宅（母親と同居）である6番には、子世帯として使われている2階に台所と食堂があるが、他の家には食堂はない。
- ④戸建て、長屋ともに持家の7軒には浴室があるが、借家の3軒は浴室がない。

表4 町屋の室構成

【1階】

住宅番号	台所	食堂	LDK DK	便所	洗面	浴室	和室	洋室	納戸	その他
3	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0
4	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0
5	1	0	0	1	1	1	4	0	0	0
6	1	0	0	1	1	1	5	0	1	0
12	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0
21	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0
42	1	0	0	1	1	1	3	0	0	1
50	1	0	0	2	0	1	4	0	1	0
51	1	0	0	1	1	1	5	0	0	0
54	1	0	0	1	1	1	3	0	0	0

注) その他は板間3畳

【2階】

住宅番号	台所	食堂	LDK DK	便所	洗面	浴室	和室	洋室	納戸	その他
3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
6	1	1	0	1	1	0	3	1	0	0
12	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
21	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
42	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
50	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
51	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
54	0	0	0	1	0	0	4	1	0	0

注) その他は2軒とも板間3畳

3) 改修の状況

改修箇所とその時期について得られた回答を表5に示す。これより屋根の改修は、全軒で行っていることがわかる。また外壁と便所の改修も6軒が行っているが、便所の改修は水洗便所への改修や洋式便器への取り替えというものであった。ちなみに現在は、10軒中9軒が洋式便器を使用しており、和式便器を使用しているのは1軒にすぎない。さらに表5から借家の改修箇所としては屋根の他、外壁、便所、その他（物干し台の取り付け）があるが、その他以外は改修時期がかなり古いことがわかる。これに対して持ち家は台所、浴室、洗面所なども改修されており、改修時期も新しい。25年前に屋根を改修した5番でも、近々屋根の改修を予定しているとのことであった。

一方、住んでいる家の問題点について「なし」と回答したのは、近年に改修を行った5番と21番のみであった。問題点としては、借家3軒を含む5軒が浴室や洗面所が狭く寒い点、2軒が台所の段差と階段が急な点を挙げている。また2世帯住宅に5人が暮らす6番は、個室として使用できる部屋が洋間1室しかない点と収納が少ない点を挙げている。しかしながら、今後の改修予定について「考えている」と回答したのは、屋根の改修を予定している5番と、室内の塗り替えを予定している6番の2軒のみであった。「考えていない」と回答した8軒は、その理由として「歳を取っているから」、あるいは「改装費用の負担が大きいから」のいずれかを挙げていた。さらに今後については、全軒が「現在の家に住み続ける」と回答した。

表5 修理箇所とその時期（年前）

住宅番号	屋根	外壁	基礎	玄関	居室	台所	便所	浴室	洗面所	その他
3	20	20								
4	30	30								1
5	25				8	7	7	1	7	
6	1	1	1			25	20	1	1	
12	30						40			
21	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
42	不明	不明					3	3		
50	5	1		1	5	1	20	3	1	
51	4									
54	1									

3-3 祠の現況

調査範囲内に祀られている祠には、神社系のものと仏教系のものがある。さらに神社系の祠には、「お稲荷さん^{注2)}」と「巳さん^{注3)}」があり、外観の特徴として祠の前や台座上に鳥居がある、台座に鳥居が描かれている、お稲荷さんには狐の像が置かれているといった点が挙げられる。一方、仏教系の祠は、いわゆる「お地藏さん^{注4)}」であり、外観の特徴として台座に卍が描かれている、屋形の内部に石仏が置かれているといった点が挙げられる。

祠の存在状況について、今回の調査結果と1977年の調査結果を比較して次の3種類に分類した。

- 1) 現存…同じ場所に祀られているもの
- 2) 移動…場所を移して祀られているもの
- 3) 消失…今回の調査で確認できなかったもの（神社や寺に返されたものを含む）

表6に結果を示す。1977年当時には、仏教系40基、神道系30基、合計70基の祠が記録されているが、今回の調査では、仏教系31基、神道系27基、合計58基が現存しており、現存率は82.9%であった。

さらに現存する祠の外観を1977年当時の写真と比較して、次の3種類に分類した。

- 1) 変化なし…祠の外観に変化がないもの（写真3-①）
- 2) 変化小…台座の塗り替えや賽銭箱の設置などにより、外観が一部変化したもの（写真3-②）
- 3) 変化大…台座や屋形が新しくなるなど外観が大きく変化したもの（写真3-③）

表6 祠の存在状況

地区名	種類	1977年 調査時	現 存	移 動	消 失
銅座	仏教系	4	4	0	0
	神道系	5	3	0	2
桃園	仏教系	14	13	0	1
	神道系	11	10	0	1
桃谷	仏教系	6	3	3	0
	神道系	6	6	0	0
瓦屋町	仏教系	8	5	1	2
	神道系	5	5	0	0
東平	仏教系	8	6	0	2
	神道系	3	3	0	0
合 計		70	58	4	8

表7に結果を示す。現存する58基の祠のうち、変化なしは38基で、現存する祠の65.5%であった。また、変化小および変化大の内容は、表8に示すように「台座が塗り替えられた」、あるいは「屋形が新しくなった」といった手入れをされた結果の変化であり、1977年当時より外観が荒廃したものはない。特に桃谷地区の玉勝大明神については、1977年当時は屋根瓦が剥がれたままの荒廃した状態だったが、今回の調査では新しい台座と屋形が設けられ、周囲もきちんと手入れされた状態となっていることが確認された(写真3-③)。祠は現存率が高く、今も手入れが続けられていることから、多くの町屋が都市化の影響を受けて失われつつある現在においても、祠は地域住民の民間信仰対象として守られているものと考えられる。

表7 現存する祠の分類

地区名	種 類	変化なし	変化 小	変化 大
銅座	仏教系	4	0	0
	神道系	2	1	0
桃園	仏教系	8	1	3
	神道系	8	1	1
桃谷	仏教系	3	1	0
	神道系	3	1	2
瓦屋町	仏教系	0	4	1
	神道系	4	1	0
東平	仏教系	3	0	3
	神道系	3	0	0
合 計		38	10	10

表8 変化小および変化大の祠の内容

	地区名	祠名称	内 容
変化小	銅座	春高稲荷大明神	台座がレンガ造から洗い出しに変わる。
	桃園	北向地藏尊	台座、屋形がペンキで彩色され、屋形に扉が設けられる
		榎木大明神	台座が石造から木組となり、周辺も整備されている。
	桃谷	延命地藏尊	台座がモルタル造からタイル貼りに変わる。
		吉峯大明神	台座下部がモルタルで塗り固められる。
	瓦屋町	北晃地藏尊	祠の名前を記した石柱が立つ。
		出世地藏尊	台座が塗り替えられ、賽銭箱が設置されている。
		身代寺僧村	台座が洗い出しからタイル貼りに変わり、ロウソク立てと賽銭箱が設置されている。
		【不明】	屋形の屋根が修繕されている。
		白玉大明神	樹木が切られ、周囲の電球が取り除かれている。 また賽銭箱が設置されている。
変化大	桃園	延命地藏尊	台座と屋形が新しくなるが、デザインは変わらない。
		延命地藏尊	屋形が新しくなり、北向きから西向きになる。
		水呑地藏尊	屋形が一回り小さなものになり、デザインも変わる。
		玉勝大明神	屋形が新しくなり、デザインも変わる。 賽銭箱が設置される。
	桃谷	豆熊大明神	屋形が新しくなるが、デザインは変わらない。 周囲の柵が取り除かれる。
		楠玉社	新しいデザインの屋形になる。
	瓦屋町	金剛地藏尊	屋根のデザインが新しくなった屋形になる。
	東平	【不明】	屋根のデザインが新しくなった屋形になる。
		延命地藏尊	屋形が新しくなるが、デザインは変わらない。 周囲の柵が取り除かれる。
東平地蔵尊		屋形がなくなり、石仏がむき出しとなる。	

一方、今回の調査で場所が移動した祠は4基、消失した祠は8基であった。これらの祠の移動や消失の理由、その後の消息などについて、近隣の住民に聞き取り調査を行った(表9)。その結果、祠が移動されたり失われたりする背景として、次の2つがあることがわかった。

- 1) 祠を含む一帯の町屋が取り壊されて、マンションやオフィスビルに建て替えられた
- 2) 町屋は現存しているが、住民の高齢化などの理由により祠の管理が困難になった

1)は消失の6基、2)は移動の3基と消失の2基に当てはまる。しかし、マンションへの建て替えに伴って一旦消失したが、その後復元された祠もあることがわかった。桃谷地区の空堀延命地蔵尊は、近所の長屋に住む15世帯の住民によって管理されてきたが、平成13年に長屋がマンションに建て替えられたとき住民が町を離れてしまった。そのため管理する人がなくなった地蔵は、大阪府中央区中寺町の法性寺に預けられることになった。しかし、マンションの管理人や空堀商店街の人たちが寄付を募って新しい屋形を作り、平成14年4月6日にマンション敷地内に戻された。現在、空堀延命地蔵尊でも8月に地蔵盆が行われている。この地蔵盆では、伝統的な行事の他、商店街や民間団体によるさまざまなイベントが催され、他の地域からも多くの人を集めている。

なお、今回の調査では、1977年の調査結果には記載されていない祠8基(桃園、桃谷、瓦屋町、東平の各地区に2基ずつ)を確認した。

表9 移動および消失した祠の内容

	地区名	祠名称	内 容
移 動	桃園	矢田地蔵尊	管理が町内会から個人に代わり、路地奥から表通りに移された。
	桃谷	北向地蔵尊	管理が個人から町内会に代わった時に関西電力の敷地に移された。
		空堀延命地蔵尊	マンションへの建て替えに伴い一旦消失したが、場所を移して再建された。
	瓦谷町	延命地蔵尊	管理する人が代わったとき移されたい。
消 失	銅座	白峯大神	オフィスビルに建て替わる時につぶされてしまったかもしれない。
		五郎一大明神	マンションに建て替わる時に神社に戻されたい。
	桃園	火除け地蔵尊	管理する人がなくなったため、寺に戻されたい。
		【不明、巳さん】	分譲住宅が建っている。行方はわからない。
	瓦屋町	延命地蔵尊	管理する人がなくなったため、3、4年前に天性寺に預けられる。
		宮位廣地蔵菩薩	10年ほど前、オフィスビルに建て替わる時につぶされた。
	東平	【不明】	マンションに建て替わる時につぶされてしまったかもしれない。
		吹寄地蔵尊	マンションに建て替わる時につぶされてしまったかもしれない。

4. まとめ

1977年に調査された大阪市中央区空堀商店街周辺の町屋と祠について2004年に再調査を行い、27年に渡る都市化の影響を調べた。その結果、町屋については6割以上がマンションやオフィスビルなどに建て替わっており、都市化の影響を強く受けていることがわかった。それに対して祠は約8割が同じ場所に存在し、現在でも住民によって手入れされていることがわかった。また都市化の影響によって立ち退きを余儀なくされても、場所を移して祀られている祠もあることから、現在でも祠が住民の信仰対象として生き続けているものと考えられる。

この地区では、住民の高齢化が進むとともに古い町屋が失われていく一方で、町屋を環境資産として活用したり、地蔵盆などの祠の祭事を商店街の活性化に利用する運動も開始されている。また町屋の魅力に惹かれ、この地区の古い町屋を店舗やSOHOに改装して移り住む若い世代も多い。さらに今回の調査地区に含まれる桃園と桃谷は、大阪市のHOPEゾーン事業地区に指定^{文4)}され、2004年8月には「空堀地区HOPEゾーン協議会」が設立された。今後、このような形の世代交代や住環境作り運動が、都市化の波に対抗して、大阪市中心部に残された町屋や祠の存続をどのように支えてゆくかが注目される。

なお、本研究に際し、1977年に行われた調査の未発表データをご提供下さった株式会社DAN計画研究所の吉野国夫氏に厚くお礼を申し上げます。

注

注1) 大阪市のホームページによると、大阪市全体の人口は減少傾向にあり、1975年の277万9千人から2000年には259万9千人と約18万人減少している。しかし、大阪市中央区では、減少傾向にあった人口が、1995年から2000年の5年間に約3万6千人増加し55万3千人となっている。また人口増減率も1995年から4.6%上昇している。

注2) お稲荷さんは「稲成(いねなり)」、すなわち稲が成育することを意味し、五穀をはじめ全ての食物を司り、稲の育成を守る農業の神として祀られていた。そして時を経るに従い、農業ばかりではなく、漁業や商工業など諸産業の神様としても幅広い信仰を集めていった。

注3) 巳さんは蛇神であり、蛇が脱皮しながら成長する様を出世になぞらえ、財産を呼び込む弁天様の使いであるとする説がある。大阪市中央区には、今でも巳さんが住むという伝えを持つしめ縄を周囲に巡らした古木が何本も残されている。

注4) 地蔵信仰は、末法思想が唱えられた平安時代の初期に、死後、地獄へ行く苦しみから人間を救うものとして貴族の間に広まった。さらに時を経ると、地蔵信仰は子供の守護神として庶民の間にも広がっていった。そして旧暦7月24日に子供たちが地蔵をまつる「地蔵盆」の風習も盛んになり、今日のような信仰の形ができあがった。

【参考文献】

文1) 内田九州男：大坂築城—大阪まちづくりの起点、千年都市大坂 まちづくり物語、(財)大阪市都市工学情報センター、1999

空堀商店街（大阪市中央区）周辺の町屋に関する研究

- 文2) 西川幸治他：まちに住まう－大阪都市住宅史－，平凡社，1989
文3) 尾形圭一，高田光雄：コミュニティ・ネットワークを志向する活動に関する基礎的研究－上町台地
周辺地区を対象として－，日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道），pp403－404，2004
文4) 大阪市政新聞，2004年9月1日号

キーワード：大阪市 上町台地 町屋 祠 まちづくり

Keywords：Osaka City, Uemachi Heights, Wooden Town Houses, Small Shrine, Urban Design



①長屋



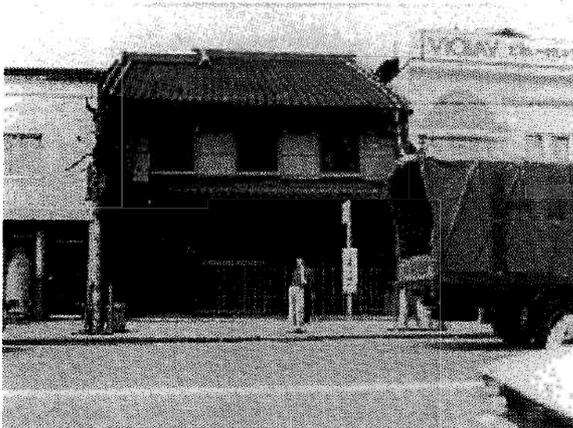
②戸建て (門)



③戸建て (蔵)

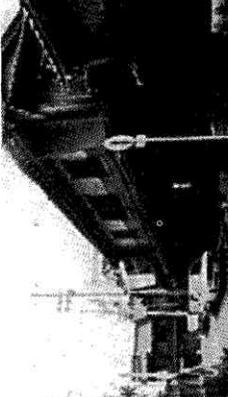
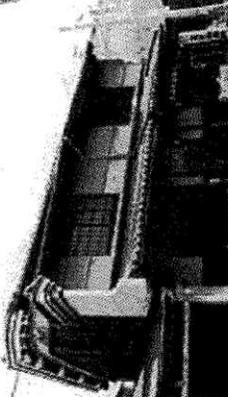
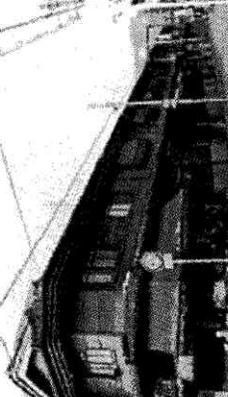
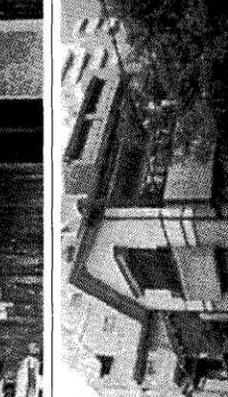
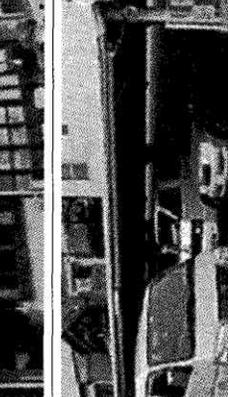


④戸建て (3階)

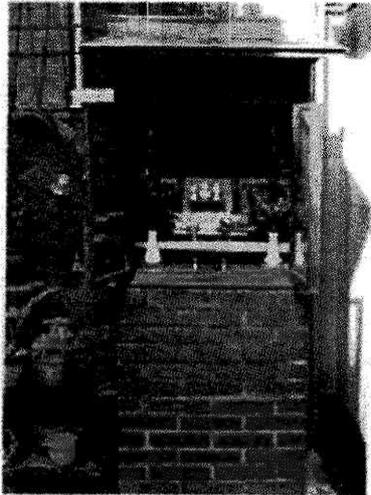
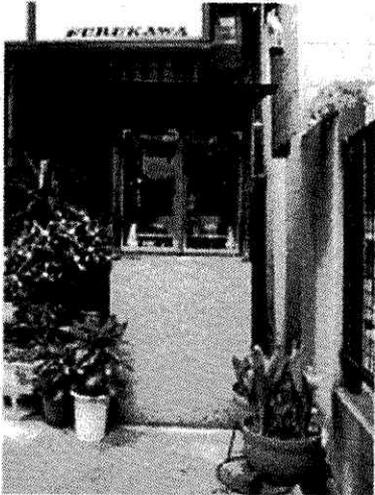
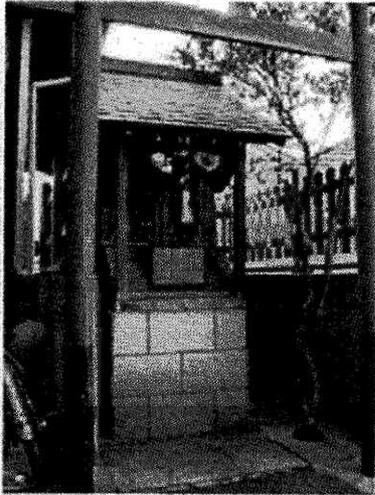


⑤戸建て

(写真1) 1977年に調査された町屋の分類

	①現存	②一部現存	③一部現存	④転用
1977年				
2004年			⑦オフィスビルへの建て替え	⑧駐車場への転用
1977年				
2004年				

(写真2) 1977年と2004年の調査による町屋の変化状況

	1977年	2004年
①変化なし		
②変化小		
③変化大		

(写真3) 1977年と2004年の調査による祠の変化